

「東北圏広域地方計画シンポジウム～広域地方計画の実現に向けて～」

開催概要

8月に策定された「東北圏広域地方計画」の実現に向け、東北圏内の各県・各界で活躍されている方々から意見をいただく、「東北圏広域地方計画シンポジウム～広域地方計画の実現に向けて～」を開催した。

当日は、あいにくの小雨模様であったが、経済界、民間、自治体関係者等、約350人が参加。基調講演、パネルディスカッションでの各出演者からの計画を実行する上での意見に、最後まで熱心に耳を傾けていた。

- 日 時 平成21年11月13日（金）
13:30～17:00
- 場 所 仙台エクセルホテル東急
- 主 催 東北圏広域地方計画協議会
- 参加人数 約350人



▲基調講演



▲パネルディスカッション

- 開催目的 「東北圏広域地方計画」が策定され、
一圏民は何を求め・期待するのか 一どのように計画を進め期待に応じていくのか
圏民の声を聴き、計画の実行について内外に発信する。

■内容（出演者）

- 基調講演（約60分） 『企業が東北に期待するもの』
森岡 國男 氏（NECセミコンダクターズ山形(株) 代表取締役社長）
- パネルディスカッション（約120分） 『広域地方計画に圏民は何を期待するのか』
コーディネーター 柴田 洋雄 氏（東北圏広域地方計画懇談会 副座長）
パネリスト 佐藤 大介 氏（古牧温泉青森屋 取締役総支配人）
鈴木 幸夫 氏（(株)秋田ニューバイオファーム 代表取締役）
平 克美 氏（宮古地区広域行政組合 消防本部 消防長）
立石 吉識 氏（(株)福島製作所 代表取締役社長）
根本 建二 氏（山形大学医学部教授 がん臨床センター長）
長谷川美香 氏（(有)ミユバ・サルゲデザインオフィス 取締役社長）

■主な意見

- 基調講演（森岡氏）
 - ・生き残りに必要なものは（4M）「Man」、「Machine」、「Material」、「Method」
 - ・「Man」は、東北人の真面目さや一生懸命さが生きてくる。
 - ・可能性を持った東北圏であるが、インフラ整備やエネルギー供給の面で課題。
 - ・広域地方計画には、様々な機関が連携することで、広域的なインフラ整備等に期待。
- パネルディスカッション
 - （佐藤氏）
 - ・インフラ整備は必要だが、交通アクセスが向上したからと言って、観光につながるという過度な期待は間違い。
 - ・多種多様な分野との横断的な関わりで、観光がより一層強くなると期待。
 - ・観光客にとって行政境は関係ない。「広域圏で売る」という発想が必要。
 - （鈴木氏）
 - ・1人当たりの所得が東北最低水準である秋田県において、農業の6次産業化を目指した取組を行っている。
 - ・水田だけでは農業維持は困難、自ら耕作放棄地としないため知恵をだす。
 - ・計画の実現に向け、できることから確実に急いで取り組んで頂きたい。

- (平氏) ・宮古のような厳しい地形条件下で、地域医療、防災対策への取組が課題。
- ・遠隔医療やドクターヘリ等、地形的悪条件を克服する取組に期待。
- ・地方にとっての道路は、「命を守る」もの。広域連携で取組をお願いする。
- (立石氏) ・会社として、低炭素工場づくりを目指している。
- ・アジア共同体の実現に向け、港湾・空港等の整備が必要。
- ・低炭素社会の実現には、地域連携、企業と個人の連携等が必要。
- (根本氏) ・がん医療は、放射線治療、化学療法等の進歩目覚ましいが専門医が不足。
- ・「東北がんネットワーク」を立ち上げ、技術・情報等格差是正に取り組んでいる。
- ・高度医療～中間医療～在宅医療をつなぐ広域的視点に立った取組が必要。
- (長谷川氏) ・「地域づくりコンソーシアム」は、地味ながらも地域に必要なプロジェクト。
- ・地域づくりが、住民にも見える環境づくりを目指して頂きたい。
- (柴田氏) ・広域地方計画の広域連携プロジェクトの特徴は、多様な分野に渡る、幅広く横断的な取組。
- ・これからの取組は、地方と国が、ギブ&テイク、ウィン-ウィンの関係となることが重要。
- ・「東北圏広域地方計画」の副題である『豊かな自然の中で交流・産業拠点とし発展するふるさと「東北につぼん」の実現に向け、関係機関が協力して、その発展を共に分かち合うことができるよう取り組んで頂きたい。

■ アンケート結果（会場の主な意見）

- ・計画の実現には、産学官の取組のほか、民間・住民の理解と協力が必要。
- ・何をいつまでに実現するのか、ロードマップが必要。
- ・“広域”はこれから重要なキーワード。役所目線ではなく、各分野・多面的な目線に期待。
- ・ゆくゆくは、行政主体でない形で、このような取組が進めばよい。
- ・集落を維持するための施策が、農業、環境の面からも必要。
- ・計画を知らない人が多いので、一般住民へのPRが必要。

■ 新聞記事

東北圏広域計画シンポ 「広域視点」から計画実行へ

東日本広域地方計画協議会主催の「東北圏広域計画シンポジウム」が13日、仙台エッセルホテル東急で開かれた。経済団体、自治体関係者が一堂に集まり、広域連携の重要性をめぐって議論が交わされた。

講演する森岡社長は「東北圏広域計画は、東北地方の発展にとって大きな転機である。我々が持つインフラや防災のノウハウを積極的に提供し、地域の課題を解決する役割を果たしたい」と述べた。

また、自治体関係者からは「広域連携による資源の共有や、防災力の向上は非常に重要だ」との意見が述べられた。

▲11/18 日刊建設産業新聞

観光、医療などの観点から提言 東北圏広域計画シンポジウムを開催

東日本広域地方計画協議会主催の「東北圏広域計画シンポジウム」が13日、仙台エッセルホテル東急で開かれた。経済団体、自治体関係者が一堂に集まり、広域連携の重要性をめぐって議論が交わされた。

講演する森岡社長は「東北圏広域計画は、東北地方の発展にとって大きな転機である。我々が持つインフラや防災のノウハウを積極的に提供し、地域の課題を解決する役割を果たしたい」と述べた。

また、自治体関係者からは「広域連携による資源の共有や、防災力の向上は非常に重要だ」との意見が述べられた。

▲11/16 建設新聞

東北圏広域計画で「命を守る」道路整備を

東日本広域地方計画協議会主催の「東北圏広域計画シンポジウム」が13日、仙台エッセルホテル東急で開かれた。経済団体、自治体関係者が一堂に集まり、広域連携の重要性をめぐって議論が交わされた。

講演する森岡社長は「東北圏広域計画は、東北地方の発展にとって大きな転機である。我々が持つインフラや防災のノウハウを積極的に提供し、地域の課題を解決する役割を果たしたい」と述べた。

また、自治体関係者からは「広域連携による資源の共有や、防災力の向上は非常に重要だ」との意見が述べられた。

▲11/17 日刊建設工業新聞